

再生エネルギーについて

～再生可能エネルギーの地産地消を目的とした運営を検討～



かわのゆうじ
川野優治

緑政会

本卸電力取引所から電力のバッファーアップ電源や電力の日が、場合が、全量が確保できな

新電力会社の目標は、再生可能エネルギー100%の電源確保です。

答

地域創生課長

新電力会社及び地域エネルギー会社の概要と経営見込みは。

質



木質バイオマス発電所

購入電源で賄うよう計画しています。電力の販売先は、初年度となる本年度は市の公共施設の高圧部門から販売を開始し、次年度以降は、民間企業や個人も順次契約をお願いしていきます。経営見込みは本年度から黒字化を目指していきます。

地域エネルギー会社

質

バイオマス発電所周辺の粉じん等の被害を伺う。

は、民間のバイオマス発電所からの排熱の熱需要家を誘致し、熱供給を行うことを目的とする会社です。

観光協会を廃止して設立された里の旅公人は、宿泊業に力を入れ、観光案内等の本来の業務は不十分と言わざるえない。市の見解は。

質

答
市長

「市と里の旅公社の役割、責任分担などを検討する」

観光行政について

市としても、ジオパークといった本市ならではの魅力発信、誘客等が里の旅公社の最大の使命であると考えています。里の旅公社も今後は本来業務である観光振興にも力を注ぎます。

答
農林整備課長

昨年の運転開始後、周辺住民の方から粉じんの飛散や騒音の苦情が寄せられるようになりました。会社も種々飛散・防音対策を講じ

ていますが、まだまだ課題が多く、解決には至っていません。市としては会社に対し、問題の根本的な解決に向けた対策を指導していきます。



よし ふじ さと み
吉 藤 里 美

市民クラブ

若い世代に対する移住・定住対策としてだけではなく、地域における人材不足の解消につながるものと理解しています。

若者の人口流出を防ぎ、U・Iターンが期待できる施策として、奨学金返還の補助の有効性を調査・研究していくたいと考えています。

定住対策の充実を

～魅力ある移住・定住対策を模索～

答
まちづくり推進課長

市内の福祉職場や医療現場では、人手が足りない状況があり、豊後大野市の労働力不足は深刻な問題になりつつある。定住促進事業である移住奨励金の対象者の拡大はできない

答
市長

若者のU・I・ターンの推進のため、奨学金返還の補助はできないか。

促進を目的に設けられており、交付要綱の施行期間を総合戦略の計画期間（平成31年度まで）としているため、今後、制度の延長や扩充などの見直しを進めることで、課題の一つとして検討します。

飲料用水施設改善補助金の対象拡大を

～他市の状況等を踏まえながら検討する～



豊後大野市の市営水道普及率は63・3%で県内ワースト6位。現在、本市の組合水道等への飲料用水施設改善補助の対象は、新規の井戸の掘削及び新規水道施設工事のみである。ライフラインである飲料用水の供給は市の責務であるという観点から、加入者数や施設の内容が多種多様である組合水道の実態把握を行い、要望にそつたも

他市の状況等を踏まえ、現行制度の検証とともに公営水道区域外の飲料用水施設の改修、修理等の補助金も検討していきたい。

答 環境衛生課長

のとなるよう、現行の補助要綱を早急に見直し、施設の修理や更新も補助対象にできないか。